

「最後にどんな目をいれるか・・・。」



「お早うございます。」（おはようございまあす。）

まだちょっと寒いですが、校庭での月曜朝会は気持ちがいいですね。

今、6年生のお姉さんが大きな声で挨拶をしてくれました。その時、私が朝礼台のうえに上るのがちょっと遅れてしまいました。すると、さっきの6年生の代表のお姉さんは、じっと先生の登る様子を見て、黙って待っていてくれました。そして、私が上ったのを確かめてから、笑顔で挨拶をしてくれました。これが思いやり、人を大切にすること、素晴らしいですね。朝から、とてもすがすがしいです。

さて、まだまだ寒さ厳しい毎日ですが、それでも校庭の桃の木や梅の木、桜の木々の芽に春の兆しを感じる今日この頃です。

そして、今朝「今日は『春一番』が吹くかもしれません・・・。」と新聞のお天気欄にのっていました。

春一番って知っていますか。

「春一番」というのは、これまで冬の間、北からの寒うい北風がびゅうびゅう吹いて、北風小僧のかんたろうのように、毎日毎日寒い日が続いていました。でもだんだんと辺りが温かくなって、春が近づいてくると、北から吹いていた風が東の風になり、そして、春のかぜ、南からの温かい風に変わります。この、南からの風の第一号が、『春一番』なのです。ほこりを巻き上げ強い南風が吹いて、春一番が春の来たのを知らせます。今日はそんな風が吹きそうな、昨日よりも少しあたたかい朝ですね。

そう、もうすぐ春、今の一年間もうすぐ終わりです。

この一年の間に1年生も2年生も、3年生も4年生も、5年生も5年生らしく、そして6年生は最上級生として立派になりました。

前に、1月行く月、2月、逃げる月、3月去る月というとおりの、年が明けてからあっという間にもうふた月が過ぎようとしています。

もうすぐ、みんな今の学年を終えて、1年生は2年生に2年生は3年生に、4年生も5年生も1年進級です。そして、6年生はいよいよ中学生に近づいてきましたね。

そこで、今日は、1年の終わりの話、「最後にどんな目を入れるか。」という話をします。

お店に行くと、お正月の曲はとっくに終わっていて、節分も終わり、もう3月のお雛さま、桃の節句の曲が流れ、たくさんのお内裏様やお雛さまが、色とりどりに並んでいます。

テレビでも、桃の節句に向けて、お雛さまづくりに追われる雛人形の産地の様子をニュースで流していました。

その時に、心に残る場面がありました。それが、「最後に心をこめて目を入れる」という話です。ニュースではたくさんのおひな様が作られていく様子が映像で流されていました。半年から1年くらいの時間をかけていろいろなおひな様が多くの人の手をで作られていきます。体をつくる人、手足を作る人、着物を作る人。そして、作った着物を着せる人。頭を作る人、その頭に髪の毛を植える人、その髪の毛をきれいに結

て冠をつける人。そして、体と手足と頭を組み立てる人。と、さまざまな工程を多くの人の手を経て人形が完成に近づき、最後に顔を仕上げる職人さんに人形がわたります。

そして、そのなかでも最後の仕上げの、「目」を入れる作業の場面での職人さんの言葉「最後にどんな目を入れるか」が印象に残ったのでお話しします。

「体もでき、着物も着せて、きれいな顔に仕上がって、あとは目を入れるだけ。

さて、この時が一番気を使う。手の動きひとつで、これまでのたくさんの人の努力や仕事の値打ちが決まってしまう。

単純な仕事だけれども手の震える思いだ。でもそれでは、目が入らない、仕上がらないので心を落ち着け、これまでの経験を生かし、素直な気持ちで最後の最後に一気に目を入れる。

この時、心に迷いがあるとだいなしになる。たくさん人間が半年も時間をかけて作った仕事が全部無駄になってしまう。だから、心を込め、気を落ち着けて、そして一気に目を入れる。最後にどんな目を入れるかということが、その人形に命を吹き込めるかどうかを決めるのです。」

このように、「最後の仕上げ」が、たくさんの努力を活かしたり、だいなしにしたりするんですね。さっきもお話したように、3学期は、「1月は行く月」「2月は逃げる月」「3月は去る月」。油断しているとあっという間に終わってしまいます。

皆さんの一年はどんな1年でしたか。

これまで、自分でも努力し、友達や家族、先生など、たくさんの人と一緒に1年間がんばってきましたね。

そして、最後の仕上げに、どんな目を入れて、どんな1年にしましょうか。

残りはわずか、でもまだまだ油断できませんよ。1年間を台無しにしてしまうか。とてもよい1年としてまとめるのか。

さてさて、桃五の皆さんは、最後にいったいどんな目を入れるのでしょうか。

